



ウェルフェア通信

Vol.5

更なる発展へ



医療法人朗源会
副理事長 大隈 健英

朝夕はようやく凌ぎやすい天候になってまいりましたが、皆様方はいかがお過ごしでしょうか。

2011年、今年は日本にとって大変な年になりました。この国を大きく動揺させた東日本大震災はまだまだ記憶に新しい出来事です。

特筆すべきは津波や原発損傷の影響だけではなく、この甚大な出来事をきっかけに、この国の危機管理が過去をさかのぼり形を成していない事が発覚し、その結果、国全体に被害をもたらしている事ではないでしょうか。

この様な危機的状況下でも、被災現場では有志やボランティア団体が全国から集結し国の援助なしに、出来ることからコツコツと支援を進めて行く姿が心を打ちました。一人では力及ばなくとも、志のある人々が集結すれば大きな力になることを改めて思い知らされました。

また先日の「なでしこジャパン」の女子ワールドカップサッカー大会での快挙には大変感激いたしました。小さな日本女性が大柄な欧米女性を相手に、自分たちの足元を客観的に見据え、導き出した戦略で見事に優勝を果たした事は、人々に成功法と希望を与えて下さったと思っています。

被災地復興もサッカーも、一人では出来ません。同じ目標を持たずして同じ方向に進めないことを、強く感じました。

2011年、我々朗源会グループは、一つの目標を定めて、新たに始動いたしました。地域拠点病院を目指すべく園田のおおくまりハピリテーション病院東隣に新病棟を建設します。

この建設にあたり、年始より医師・看護師・コメディカル・事務職と病院内に勤務する多くのスタッフに集結頂き、幾度となく建設会議を行ってまいりました。当初、参

加を呼びかけられた会議出席者は、幹部が決めた大きな計画に突然放り込まれて、「やらされ感」を抱きながら出席していたようです。

しかし、回数をこなすごとに新病棟建設の主旨が伝わり、具体性が出て来るに従い、議論は白熱し、いつしか本気でより良い病院を作ろうと考える集団へと変化していきました。

我々現場畑が考える良い病院とは、自分もしくは家族が受診するときに「選ぶ病院」です。高次多機能も結構ですが、患者様の立場を理解し、プライバシーを尊重してくれて、あたかも自分の親戚が勤めているような心豊かなスタッフのいる病院です。

心豊かなスタッフになるためには、日々の勤務も楽しくなければ、そんな余裕も起こりません。働きやすく、弱者を孤立させず助け合う職場でないといけません。新病棟建設会議で働きやすい職場を作り、選ばれる病院になるといった目標がここで具体化してきましたが、一人の力はあまりに脆弱です。しかし、三人寄れば文殊の知恵と謳われるように、また被災地の為に汗を流す人や「なでしこジャパン」のように、同じ志を持った人間が集い、皆で同じ方向を向き歩んでいければ、励まし慰めあい、タブーを排除し、どんな困難にも立ち向う勇気も芽生え、それは大きな力になっていきます。

新病棟建設を機に新しい目標を定め、動き始めた我々にとって、この事は強い励みとなり得るでしょう。

またこの度、私は5月に行われた朗源会理事会で副理事長に任命されましたが、皆様ご存知のとおり頼りない事甚だしく、親の七光りよろしくお恥ずかしい人事となりました。

一人では何も出来ませんが、朗源会を動かす歯車の一つとして、これからも引き続き全スタッフと一丸となり、地域の人々から選ばれる拠点病院確立を目指して歩んでいきたいと思っています。今後とも皆様の変わらぬご支援を賜われますようお願い申し上げます。

画像診断機器の共同利用について



大隈病院 放射線科
部長 吉本 敦史

当院放射線科では常勤診断医（日本医学放射線学会専門医）1名、非常勤医師数名が画像診断を担当しています。放射線技師は5名が各種画像検査を担当しており、地域医療機関様からの各種画像検査依頼に対し迅速な対応を目指しています。

2009年より、現在実用可能な最高峰、世界初の320列面検出器搭載マルチスライスCTである320列エリアディテクターCT(東芝 Aquilion ONE)を導入。

特に冠動脈、脳血管の3D-CT angiographyでは従来の侵襲的血管造影に対し非侵襲的に高精度血管情報が得られ、有用な画像情報の提供が可能となりました。

X線被曝の大幅な減少、検査時間の大幅な短縮、造影剤使用量の低減、アーチファクトの低減、画像分解能の向上など利点が多く、患者様の負担も大幅に減少しました。

当院では、この最新鋭320列CTをご利用して頂けるよう、地域医療機関様からの検査依頼をお受けいたします。

- 最先端の画像情報をご提供いたします。
- 従来では入院の必要があり、患者様に大きな負担となっていた心臓血管（冠動脈）や脳血管および頸部血管検査を、外来で受けていただけます。
- 心筋梗塞、脳梗塞など危険な状態に陥る前に、血管の状態を把握でき、的確な治療計画が立てられます。（現在、日本人の死亡原因の第2位が心疾患、第3位が脳血管疾患です）
- わずか0.35秒で心臓の撮影が可能です。
- 被曝線量が非常に低く、64列CTと比較した場合、わずか1/10前後の2mSv程度です。
- 検査の待ち時間がありません（初診受付/会計の省略）。
- 冠動脈に異常が発見された場合、当院で冠動脈治療まで対応可能です。
- 診断レポートをお返しします（患者様に初診/会計が必要となる場合があります）。
- 患者様の自己負担額が軽減できます。

詳細は、おおくま病院画像センター
電話0120-320-814 までお問い合わせ下さい。

職員一同、患者様が安心して検査を受けていただけるよう努力してまいりますので、宜しくお願いいたします。

診療紹介

整形外科



おおくまリハビリテーション病院
整形外科 部長
高田 章弘

おおくまリハビリテーション病院 整形外科では、外傷や、変形性膝関節症、変形性股関節症、関節リウマチ、膝内障などの関節疾患、頸髄症、腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症等の脊椎疾患の診断・治療を行っています。

膝関節を中心とした疾患は、毎週水曜日に専門外来を行い、対応しています。1日平均外来患者数は30~40人、入院患者数は20人前後です。

入院治療となるのは、外傷の患者様がほとんどで、その手術件数は全体の約半数を占めます。なかでも、大腿骨近位部骨折が多く、その手術件数は年間約50件程度です。高齢者が多く90才以上の方も珍しくありません。麻酔科医やコメディカルの協力が得られ、受傷後早期に手術が可能となっています。

その他、変形性膝関節症、変形性股関節症、脊柱管狭窄症などに対しても、保存療法で効果がない場合は積極的に手術を行っています。

<総手術件数	1888件	H12.7~H23.7>
*骨折手術	1001件	
・大腿骨近位部骨折	515件	
	(骨接合術320 人工骨頭置換術195)	
*抜釘術	292件	
*人工関節置換術	138件	(膝 93 股 45)
*腱鞘切開術	96件	
*脊椎手術	73件	
*軟部腫瘍切除術	70件	
*膝関節鏡手術	60件	
*感染搔爬術	54件	
*腱縫合術	40件	
*その他	64件	

『閉塞性動脈硬化症』における320列CT検査について



大隈病院画像診断センター
診療放射線技師 課長

伊藤 仁

閉塞性動脈硬化症（ASO：エーエスオー）とは、動脈硬化が進んで、足の動脈が狭くなったり、ふさがったりする病気です。

その結果、足がいつも冷たかったり、しびれたり、歩くとふくらはぎの筋肉が痛くなるなどの症状が出ます。その症状のため、よく整形外科に相談される患者様が多いようです。

閉塞性動脈硬化症で細くなる動脈として、

- 総腸骨動脈：ふとももの付け根
- 膝窩動脈：膝の裏側
- 足背動脈：足の甲の真ん中付近
- 後脛骨動脈：くるぶしの下

これらの動脈は、自分で触れることができます。

脈の触れが弱ければ、閉塞性動脈硬化症の可能性もありますが、自分で判断せず専門の医師の判断が必要です。

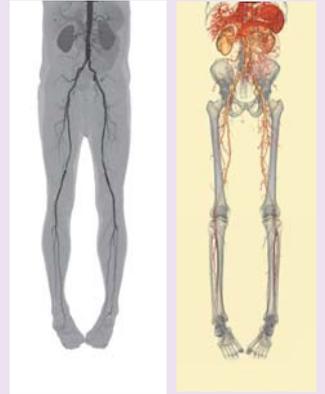
閉塞性動脈硬化症（ASO）の医師としての判断は、1.問診、2.触診に続き、必要に応じて超音波検査を行うことがあります。その結果、血管のふさがりの程度や範囲などを詳しく調べるためには、血管撮影で確認することができます。この血管撮影は非常に優れた診断を行うことができるのですが、

患者様の身体への負担が少なくはありません。

最近では外来検査で簡易的に行える、CTやMRIでの画像診断が増えてきており、一般的によく行われている検査です。

当院では最新鋭の320列CTを導入しており、この装置で検査することにより、超高速の検査を行うことができます。たとえばおへそあたりから足の甲まで、100cm以上の範囲を最速で4秒程度で検査可能です。患者様の血行の状態によって検査時間は左右されてやや長くなることもありますが、10秒以下で行うことが可能です。また最新鋭のCTであるため被ばく線量も極力低く抑えることができ、従来のCT装置と比較すると半分程度で行えます。

足の冷感やしびれ、ふくらはぎの筋肉痛がいつも続くようでしたら、当院にてご相談ください。的確な診断のもとに、最適な治療をご提供いたします。



下肢血管画像 下肢血管三次元画像

接遇研修



外部講師による研修風景

H22年度より接遇委員委員長として活動しています。

当院では、年2回の研修を開催して接遇マナーの向上を図っています。昨年は、実際にあった事例を元に委員達で役割分担してロールプレイングを実施しました。

今年度は、全職員に向けてのチェックリストを作成し、各部署で評価しています。また、7月に外部講師をお招きして接遇研修を開催し、多数の職員が参加しました。

接遇の基本は5つのマナーの基本要素から成ると考えています。

1.身だしなみ 2.姿勢 3.表情 4.あいさつ 5.言葉遣い

又、接遇目標を2ヶ月に1回決め、各委員により目標が実行されているかどうかのチェックを行っています。

H23年8・9月の目標は「私たちの笑顔は節約いたしません」です。

今後も、接遇委員会を中心に患者様への心ある接遇を全職員ができるように研修の企画を立て、ひとりでも多くの職員が積極的に参加してもらえようと考えています。

事例を分析する事でどんな対応をすれば良かったのか、気づく事が多くありました。

昨年度は、看護部のみ接遇チェックリストを作成、自己評価、他者評価を行い、マナーの向上につながりました。

大隈病院 看護部 部長 林 美濃枝

おおくまリハビリテーション病院 増築工事 起工式

本部役員、おおくまリハビリテーション病院の各部署幹部全員及び設計、施工業者の方々、地主様をはじめとする地域の方々にも多数参列いただきました。厳かな神事に、当会の参列者は皆、緊張の面持ちで、新たな発展に胸膨らませながらも、ここからが本当の正念場と、皆、決意を新たにいたしました。



部 署 紹 介

回復期リハビリ病棟



おおくまリハビリテーション病院
4階回復期リハビリテーション病棟

師長 新井 キヨ子

はじめまして。おおくまリハビリテーション病院4階病棟看護師長 新井と申します。

4階病棟は、46床の回復期リハビリ病棟です。脳血管疾患・整形外科疾患・廃用症候群を対象に日常生活動作改善・ADL能力の向上・在宅復帰そして社会復帰を目指すことを目的とした365日リハビリテーションを行なっています。

人としての尊厳を守り、その人らしく生活していくことを支えるため、回復期リハ病棟ケアの10項目宣言の徹底を推進しています。

- ①食事は食堂やディルームに誘導し、経口摂取への取り組みを推進しよう
- ②洗面は洗面所で朝夕、口腔ケアは毎食後実施しよう
- ③排泄はトイレへ誘導し、オムツは極力使用しないようにしましょう

- ④入浴は週2回以上必ず浴槽に入れよう
- ⑤日中は普段着で過ごし、更衣は朝夕実施しよう
- ⑥二次的合併症を予防し、安全対策を徹底し、可能な限り抑制は止めよう
- ⑦他職種と情報の共有化を推進しよう
- ⑧リハ技術を習得し、看護ケアに生かそう
- ⑨家族へのケアと介護指導を徹底するようにしよう
- ⑩看護計画を頻りに見直し、リハ計画に反映するようにしよう

レクリエーション活動では、看護師を中心にセラピスト・看護助手等スタッフ全員の協力により、日常生活の活性化を図るために、毎週水曜日、実施しています。患者さまの交流の場・コミュニケーション能力向上の場にもなっており、毎回楽しみにされています。

第1週	歌
第2週	体操 と ゲーム
第3週	歌
第4週	体操 と ゲーム
第5週	歌



朗源会 ウェルフェアグループ

大隈病院

尼崎市杭瀬本町2丁目17-13 TEL. 06-6481-1667

おおくまリハビリテーション病院

尼崎市東園田4丁目23-1 TEL. 06-4960-6800

おおくまクリニック

尼崎市杭瀬北新町2丁目1-18 TEL. 06-6489-0090

大隈病院附属歯科クリニック

尼崎市杭瀬本町2丁目17-1 TEL. 06-4868-8700

介護老人保健施設おおくま

尼崎市昭和通2丁目12-8 TEL. 06-6487-3900

特別養護老人ホーム ほがらか苑

尼崎市東本町4丁目103-11 TEL. 06-4868-2533

在宅事業部

尼崎市杭瀬北新町2丁目2-8 TEL. 06-6489-2520

・北部事務所

尼崎市東園田町5丁目130 TEL. 06-4960-8885

・西部事務所

尼崎市上ノ島町1丁目14-35 TEL. 06-6420-7557

やまびこヘルパーステーション

尼崎市北大物町15-13-103 TEL. 06-6483-5775

朗源会本部

尼崎市杭瀬本町2丁目17-13 TEL. 06-6481-7711